

《担当者名》教授/入江 一元irie@ 教授/越野 寿koshino@ 教授/安彦 善裕yoshi-ab@
 教授/三浦 宏子hmiura@ 教授/長澤 敏行nagasawa@ 准教授/豊下 祥史toyoshita@
 講師/倉重 圭史kura@ 教授/鎌田 樹寛t.kamada@ 教授/武田 涼子r-takeda@

【概要】

身体の運動機能の基本を理解するとともに、種々の身体条件における運動機能とそのリハビリテーションの基本を学習する。さらに、多職種連携の概念を学習する。

【学修目標】

身体運動機能の基本を理解する。
 リハビリテーションの概念を理解する。
 高齢者の心身の特徴を理解する。
 身体運動機能の障害とその回復の概念を理解する。
 多職種連携について理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	全身がわかる歯科医師がなぜ必要か。	超高齢社会において、全身管理や基礎疾患に対応できる安全な医療を提供できる歯科医師の必要性が理解できる。	豊下 祥史
2	身体運動機能の基本1	身体運動機能の基本を理解する。	武田 涼子
3	身体運動機能の基本2	身体運動機能の基本を理解する。	武田 涼子
4	身体運動機能の基本3	身体運動機能の基本を理解する。	武田 涼子
5	リハビリテーションの概念1	リハビリテーションの概念を理解する。	鎌田 樹寛
6	高齢者の心身の特徴1	高齢者の心身の特徴を理解する。	鎌田 樹寛
7	身体運動機能の障がいとその回復1	身体運動機能の障がいとその回復の概念を理解する。	武田 涼子
8	リハビリテーションの概念2	車いす体験を通じて、障害を持つ感覚や推測を深める。	鎌田 樹寛 武田 涼子
9	高齢者の心身の特徴2	・高齢者体験実習を通じて、心身の変化・特徴を感覚的に得たり、推測を深める。 ・地域の中で”その人らしく暮らす”維持期リハビリテーションについて、理解する。	鎌田 樹寛 武田 涼子
10	身体運動機能の障がいとその回復2	片麻痺体験を通じて、その感覚や推測を深める。	鎌田 樹寛 武田 涼子
11	多職種連携	多職種連携について理解する。	鎌田 樹寛
12	口腔乾燥症と疾患	口腔乾燥症の病態と関連する疾患について理解する。	安彦 善裕 長澤 敏行
13	高齢者にみられる疾患	糖尿病の病態と関連する疾患について理解する。	倉重 圭史
14	超高齢社会における問題点	地域包括ケアシステムと2025年を理解する。	三浦 宏子 入江 一元
15	高齢者の心身の特徴3	高齢者の心身の特徴を理解する。	越野 寿 長澤 敏行 豊下 祥史

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（70%）、講義中の製作物（30%）

【教科書】

その都度プリントを配付する。

【学修の準備】

予習として、次回内容に関する事柄を事前学習する。(80分)

復習として、配付資料に目を通し、問題点を確認する。(80分)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術をリハビリテーション科学の観点から学修する(専門的実践能力)。

DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力をリハビリテーション科学の観点から身につける(プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力)。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力をリハビリテーション科学の観点から身につける(自己研鑽力)。

DP4.多職種(保健・医療・福祉)と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療をリハビリテーション科学の観点から学修する(多職種が連携するチーム医療)。

DP5.歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力をリハビリテーション科学の観点から身につける(社会的貢献)。

【実務経験】

三浦宏子(歯科医師)、入江一元(歯科医師)、越野 寿(歯科医師)、安彦善裕(歯科医師)、長澤敏行(歯科医師)、豊下祥史(歯科医師)、鎌田樹寛(作業療法士)、武田涼子(理学療法士)

【実務経験を活かした教育内容】

歯科医師、理学療法士、作業療法士としての実務経験を活かし、歯科医療に有益となるリハビリテーション科学教育を行っている。